

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」		
所在地	大分市大字寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成28年8月28日	評価結果市町村受理日	平成28年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成28年10月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

- ・理事長自ら外出を提案し四季折々の自然に触れる機会を作っている。その際道の駅等で産地直送の新鮮な野菜や果物を購入しホームで提供している。
- ・本人の希望に添って近隣の美容院に付き添っている。
- ・併設している事業所の行事に参加をしました、独自のボランティアを招き歌や踊り、ゲーム、季節に応じた作品作りをし地域の方々の交流を深めている。
- ・医院併設していることで医療の連携がとれているため家族も安心している。
- ・中庭のテラスでの日光浴やお茶会、近くの公園に散歩等の支援行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- ・室内に生花を飾り、職員手作りの保存食を提供する等の季節感を大切に、利用者の思い出につながるような日々の暮らしを大切にしている。
- ・人員配置が手厚く、介護福祉士など資格取得者が多い。職員の研修やスキルアップに向けて人材育成に力を入れている。
- ・散歩や中庭での休息など日常的な外出や、河津桜、コスモス、彼岸花など季節ごとの花見ドライブやショッピングモールへの買い物など外出支援に力を入れている。
- ・法人の医療施設が隣接しており、24時間体制で医療、看護との連携が充実している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交流を大切にし、その人らしい生活を送ってもらえるようにと毎朝の申し送り時に全員で理念の共有および実践のために唱和を行なっている	地域との連携・交流を大切にすることを理念に分かりやすく掲げ、全職員で共有している。事務室の目に触れやすい場所に理念を掲示し、毎日復唱するなど、理念を日々のケアの実践の中に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練等に参加し事業所自体の行事に参加してもらい交流している	自治会に加入し、散歩のときにあいさつを交わし日常的に交流を行っている。地域の防災訓練へ参加したり、事業所の行事へ地域の人に参加している。車いすの使い方の講習など地域貢献も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症キャラバンメイトの講習を受けることで地域に向け発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の会議で地域の交番・家族会の代表・市の福祉担当・地域包括支援センター・老人会代表・ボランティア代表者等の参加があり、全員が発信できる場面を作っている	会議の中で、事業所の実践をスライドで分かりやすく報告し、意見をもらっている。地域からの参加者が多く、出された意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議においてホームの実情やケアのサービスの取り組み等を職員の立場から伝え、助言などを受けられるようにしている	市担当者は、運営推進会議に参加している。事業所の取り組みを伝えながら、アドバイスや制度や研修の情報をもらう等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束とは」と職員間で話し合い、理解を深め、行わないケアの実践に取り組んでいる	年1回、法人全体で研修を行い、身体拘束しないケアの大切さを学ぶ機会を設けている。日々の実践の中で、ベッドの配置を工夫する等、本人が安心、安全に暮らせるよう話し合いながら、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加をし、理解を深めながら職員間で話し合い全員で虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者は現在居ないが毎月開催されている法人の全体会議にて学ぶ機会を持ち、職員の共通認識を図るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアに対する考え方の取り組みを説明し、介護保険改正時や退居時には詳しく説明を行いながら同意・納得を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時家族会時に意見・要望を何でも出してもらえる雰囲気を作るよう心がけている。また玄関に意見箱を設置している	年1回、各ユニット毎に家族会を開いている。家族との連絡ノートや面会時に本人の様子を伝えながら、気軽に意見がもらえるよう工夫している。日々の暮らしの中で、本人の気持ちに添えるよう声掛けを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや毎月のグループホーム会議・小会議等で職員間のコミュニケーションを図り、何でも話し合える雰囲気を作っている	人事考課制度で、職員の意見を聞く機会を設けている。日常的に、意見を出しやすい雰囲気づくりを行い、出された意見や提案を積極的に運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や小会議等で代表者が就業規則を説明したり、また資格取得に向けた支援も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得やスキルアップの為に法人内や法人外の研修を職員の段階に応じて受講の勧めを行っている。また新人職員に対しては1ヶ月のマンツーマンの指導を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで同業者と交流する機会を設けたり意見交換をしてサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者自身が安心して生活できるよう傾聴し個別に時間を設け聞き取りをしたりコミュニケーションをとりながら信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の説明は丁寧に行い、質問をしたり不安に思われている事を一つ一つ説明することで安心して頂くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集や本人・家族との面談時に意向や要望に応じていくことや他のサービス利用の説明にも努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりに目を向け、声かけが行えるよう職員間でのケアの統一を図り喜怒哀楽に寄り添える関係を保てるようにしている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の生活について報告している。家族との関係を良好に築いていけるよう一方的に介護するのではなく御家族と共に支援するという立場を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの知人や友人がいつでも気軽に訪問してもらえるように受け入れ態勢を整えている	行きつけの美容室を利用する、馴染みの場所にドライブで立ち寄る、友人の訪問など、本人が大切にしてきた馴染みの人や場との関係を続けるための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂ホールの配置は席替えするなど定期的に見直しを行い個別の利用者の状態やレベルに合わせて利用者同士が支えあえる環境づくりに努めている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設などの様子やできること楽しみなどの情報をできるだけ詳しく伝えることで利用者の環境の変化を少なくするように配慮している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの「その人らしさ」を日常的な会話の中から引き出すよう寄り添うケアに取り組み思いや意向の把握に努めている	本人や家族から聞き取ったこれまでの暮らしぶりや思い、希望をアセスメントシートに記録している。さらに、日々の暮らしの中の会話や本人の表情などから、本人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の家族からその方の生活歴や暮らし生活全般の情報把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホーム会議や申し送り等で利用者の日常についてアセスメントし情報を共有できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き取った上で定例の会議にて意見を出し合いプランに反映している。また毎月のモニタリングにて確認や見直しを行っている	一人ひとりのニーズを基に介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、面会時に家族の意向を確認しながら、現状に即した介護計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事をケース記録や申し送りノートに記録をし朝の申し送りにて各担当者がケアプランを確認し合い、職員間での情報の共有の徹底している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の意向を取り入れ柔軟な対応に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番や地域包括支援センター自治会長、老人会代表等に運営推進会議へ参加して頂き、意見交換している。また地域の美容院の協力を得て利用できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は院長往診となっているが状況に応じては他医療機関の受診に家族の同行をしてもらっている	本人や家族の希望に添って、隣接する同法人の医院がかかりつけ医となっている。訪問診療や看護師との連携など、24時間体制で適切な医療を受けることができる。他の医療機関との連携体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回のバイタルチェックを行い体調の変化を察知し入浴・排泄時に身体の状態を観察し異変時は速やかに看護職に報告し早期発見に取り組み日常の健康管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に日常の様子等情報提供している。また家族とも頻回に情報交換を行い早期の退院支援をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や急変時の対応について十分な説明を行い理解・納得をいただいている。また家族会や面会時電話連絡などで状態報告を行い重度化や終末期に対して随時意思を確認しながら取り組んでいる	「重度化した場合の指針」と「本人と家族の意思確認書」を文書化している。入居時に説明し、状態の変化に伴って繰り返し話し合いながら家族の意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間や休日の緊急時看護師への連絡はマニュアルを作成し周知徹底を図っている。また応急処置は法人の勉強会にて実技指導をうけ全ての職員が対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と避難訓練を行っている。また地域の小学校で消火器を使った消火訓練にも参加している。また推進会議にて自治会長を通し、地域の方に災害時の協力の呼びかけを行っている	昼夜の火災を想定した避難訓練、通報訓練を行っている。地域の防災士に訓練を見てもらい、アドバイスをもらっている。地震の時に家具の転倒や落下物がないよう安全点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で不適切な言動や対応はその都度指導を行い意識改善に努めている。また一人ひとりを大切に思い尊重し必要な部分だけをさりげなく支援するように努めている	一人ひとりの尊厳やプライバシーを大切にす るケアについて、会議や研修で学んでいる。 入居者のプライバシーを守る工夫を職員で 話し合いながら日々の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや要望、また意思表示出来ない方の日々の表情などを職員間で情報交換、共有し、応えやすい選択しを作り、本人が決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分をうかがい希望や相談行いながら本人のペースで過ごせるよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時好みの洋服を着ていただき外出・行事等参加時はお化粧品や帽子などでおしゃれをしている。また要望がある時は地域の理容・美容院へ行き、パーマや毛染めをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じテーブルで食事をしながら旬の食べ物やその日の食事内容等を会話し一緒に食事をしている。職員と一緒に会話をしながら食器洗いも行っている	職員手作りの季節の保存食を添えて、思い出話などの会話を楽しみながら食事をしている。職員は、本人の好みや食べやすい形態に配慮しながら、食事の介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量、時系列で確認し摂取困難時は形態を変えトロミやゼリー等で補うようにしている。体重の増減も把握し栄養補助食等を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事、個々に応じて口腔内の清潔に努めている。また洗口液等を使用し、無理強いないように見守りできない部分は介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録しパターンを把握した上で尿意のない方にはトイレ誘導を行い、なるべくトイレでの排尿を促せるように支援し、できるだけプライバシーを考慮し見守りや確認を行う。またその方に合ったオムツを使用することでオムツの軽減繋がっている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングに合わせて声かけ、支援を行っている。各居室にトイレがあり、ベッドの配置などを工夫し自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便チェックを行い個々の排便の周期とコントロール方法を把握している。また水分チェックの徹底・廊下歩行・散歩や体操等体を動かす働きかけを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員が週2回以上入浴出来るようにしているが拒否みられる時は無理強いないような声かけを工夫し対応している。また、本人の希望に合わせて時間や入浴日以外でも臨機応変に対応している	毎日入浴できるよう準備をしており、本人の希望やタイミングに合わせて支援を行っている。 安心、安全に入浴できるように、手すりやすべり止めマットを活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの浅い方に対しては日中の活動を促し生活リズムを整えている。不安等で安眠できない方に対してはホールで一緒に過ごし傾聴している。また必要に応じて本人の希望や表情から汲み取り食後のベッド臥床を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の保管や受診時の医師による指示を申し送りノートやケースに記録し病状変化の確認に努め変化のあった場合は医師に報告する体制を取り確実な投薬を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味を把握し、カラオケや絵手紙等への参加を支援している。又、一緒に散歩に出たり、洗濯物干し・畳みや食器拭き等出きる範囲で手伝って頂き、必ず感謝の言葉を伝える様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の状態や希望時には随時ドライブ等へに出掛けている。又、家族との連携、協力を得て冠婚葬祭等への参加も実現し、外部受診のため外出する事もある。	散歩や外気浴を日常的に行っている。 ショッピングモールへ買い物に出かけたり、河津桜や彼岸花、コスモスなど季節の花見ドライブや、本人の馴染みの場所、思い出の場所への外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様より、お小遣いを預かっており、外出時や散髪時等本人に確認し職員を介して支払っている。金銭出納帳を家族に確認しサインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直筆で家族へ年賀状を送ったり、必要な方には、本人より職員が聞き取り、代筆する等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂には季節の花を生け生活感や季節感を取り入れ、居心地良く過ごせる様な工夫をしている。	草花やいが栗など、季節感を大切に生け花が、利用者の回想につながっている。リビングに面した中庭から柔らかな光が入り、職員は静かで落ち着いた環境で過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日にはテラスにてお茶を飲み外気浴を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真を飾ったり、テレビや使い慣れた家具等を持ち込み居心地良く過ごせる様に工夫している。	洋服をハンガーに並べたり、本や植物など、本人の好みのもをを活かし、居心地よく過ごせるよう工夫している。プライバシーに配慮しながら、清潔保持できるよう各居室内にウォシュレット付きトイレを配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせベットからトイレまでの動線を考え安全に使用出来る様に自立した生活が送れる様に配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」		
所在地	大分市大字寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成28年8月28日	評価結果市町村受理日	平成28年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日			

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院が併設されていることで緊急時などすぐに対応できるので利用者・家族の安心感があると思われる</li> <li>・外出時の多くは理事長と外出することで利用者も安心して外出できる</li> <li>・家族との連絡ノートを活用することで行事や外出時の様子を写真などを通して知ってもらっている</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

(本館と同様)
---------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業者名:

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念を共有し図り、地域の「美容院の利用」「防災訓練に参加」「ボランティアの受け入れ」を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体での盆踊りや餅つき大会、カラオケ等に参加し、地域の方と交流が出来る様にしている。また、グループホーム独自でも地域ボランティアの受け入れや、地域の防災訓練に参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練の場での発表や、運営推進会議を通じて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スライドを用いる事により、写真や動画でわかり易く取り組みを発信出来るように心がけ、最後には出席者全員より意見を頂けるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて取り組みを伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の会議での勉強会・研修などで理解・再認識の場を設け、実際のケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や個別の研修、研修報告の勉強会にて、共通の認識が持てるようにしている。		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の全体会議にて学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どのような事業所なのか、ケアに対して考え方のなどを十分に納得して頂けるように説明している。また、看取りや外出支援に関しては、家族会でも議題に挙げ、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として意見箱を設置したり、面会時には管理者が出来る限り挨拶に行き、話が出来る様にしている。また、家族との連絡ノートを使用している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションを取り、意見のしやすい職場環境作り心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に職場環境や資格習得に向けた支援、環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別に資格取得や、スキルアップ研修への参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会等で意見の交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		



事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族・ケアマネからの情報を基に本人の思いに向き合い、受け入れられるような関係作りに努めている。入居後も多くのコミュニケーションを取り、安心して頂けるように関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現状報告や確認を面会時や伝ら連絡にて行い、連絡を密に取ることによって信頼関係を築くとともに、家族の不安や要望を聞き、一緒に問題解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのサービス利用状況やこれまでの経緯、生活の様子を聞き、当施設のサービスについて説明し理解してもらい、入居後の環境の変化にスムーズに馴染めるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活習慣や趣味などを活かし、洗濯物畳み等の役割分担をし一緒に活動している。また、食事に職員が同席したり、一緒に外出したり、不安等のある方には時間を設け傾聴するなど、個人にあった支援が出来る環境づくりにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々に暮らしの出来事や気付きを必要に応じて面会時に報告や電話連絡にて共有し協力を求めたり、共に解決出来る環境を作っている。また、「家族との交換ノート」を活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで行っていた近所の理容・美容室に職員や家族の協力の元出掛けたり、顔馴染みの方の面会時には居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況や交流の様子を見て座席の工夫を行ったり、行事やレクリエーション等で他者と一緒に楽しく過ごせるよう場面づくりをしている。が、常に心身の変化があるので注意深く職員は見守りを行っている。		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の際には面会に行き、退院後も本人・家族に必要に応じてフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思い・希望・意向を知り、本人本意の生活が送れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居・面会時に本人や家族からこれまでの生活歴や情報を聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で、表情や言動、気付いたことなど各種チェック表やケース記録に記し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成者と担当者が本人の思いや家族の意向を聞き話し合い、プランへ反映している。また、申し送りや会議時の意見も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事をケース記録や申し送りノートに記し、職員間の情報の共有を徹底し実践している。又、個別記録を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院や外部受診等、基本的に家族が同行となっているが、本人・家族の状況に応じて通院同行、美容院付き添いを行っている。		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の警察・包括・自治会長・老人会代表に参加してもらい、活動の報告、意見交換及び、交流をしている。地域の美容院の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は院長往診となっている。状況に応じて家族の同行をお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で体調・表情の些細な変化、入浴・排泄時には全体観察し、気付いた点は速やかに看護師に報告、早期発見に取り組んでいる。内服や日常の健康管理等も、看護師の元に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供し、面会に行くように努めている。家族とも情報交換し、速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や急変時の対応についての意思を確認、十分に説明を行い理解納得をして頂いている。必要に応じて面会時や電話連絡で現状報告を行い、重度化や終末期に対しての意思を確認している。看取りの経験もあり体制は整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間や休日の緊急連絡・夜間帯の看護師との連絡はマニュアルを作成し周知徹底を図っている。応急処置は法人の勉強会で確認し、全ての職員が実践出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、入居者と避難訓練を行い、消火器の使い方なども定期的な訓練をしている。推進会議で自治会長を通し、地域の方へ災害時の協力を呼び掛けている。		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉使いなどはしない様、朝礼にて注意を職員間で呼び掛け合い、一人ひとり又、その場に合った声掛けが出来る様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人様の希望に添える様に職員や家族と連絡を取りあひ対応出来る様にしている。直接希望の訴えが無くても、コミュニケーションから本人が何をしたいか理解できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた対応をし、個別にてレクリエーションや歌などその方が好きな事を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の際に化粧や本人と服を選んで参加するようにしている。また、希望があれば地域の美容院を利用したり、併設内にて散髪も出来る様に体制を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後は声掛けにてテーブル上の片づけを一緒に行い、温かい食事を提供する為、配膳直前に盛り付けている。また、職員も一緒に食事をとり、摂取状況を観察している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給時に、お茶以外にもコーヒーや紅茶などの嗜好品も様子を見て提供している。チェックシートを用いて摂取状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア誘導し、自力で出来る方は見守り出来ていないところを職員が対応する。また、必要に応じて全介助にて口腔ケアをしている。		



事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の記録を毎回行い、排泄パターンを把握し、個人ごとのタイミングでトイレ介助を行い、失禁を少なくしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食等、野菜中心の食材を使用し提供。水分摂取量の記録を行い脱水等が起こらない様に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に必ず希望を聞き、拒否や体調の優れない場合は別の日に行っている。また、気が乗らない場合は、入浴したくなる様な声掛けを工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前のそれぞれの習慣を尊重し、入眠までにくつろげる時間を大切にしている。体感温度に応じて寝具調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を保存し、必要に応じて内容を確認している。処方変更がある時には特に症状の変化に気を付けて様子を観察し、報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力と希望に応じて職員と一緒に家事を行っている。また、個人の希望に応じ行事参加の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期に外気浴を行っている。遠方へのドライブ等の外出行事を定期的に計画し家族の協力を得て実行している。		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かり、外出時・散髪時等に支払い、金銭出納帳を用いて毎月家族に確認及びサインを頂いている。又、本人が少額のお金を持っていることもあり、管理確認、使用時の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全ての利用者が直筆または、職員代筆等にて家族へ年賀状を出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・食堂は照明や色彩に配慮しながら、利用者それぞれの導線を把握し適切なスペース作りを行い、浴室・トイレ等を含め清潔を保てる様に掃除に努めている。また、生け花等にて季節を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を気の合う人同士や、個々のホールでの過ごし方等を配慮し決めている。又、テラス付近等スペースを空け、独りで日光浴が出来る環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご自宅より慣れ親しんだ筆筒等を持ち込んだり、家族の写真等を飾ったりと、過ごしやすい様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の生活導線を日々観察し、職員間で話し合い家具・ベッド等の配置を行っている。		